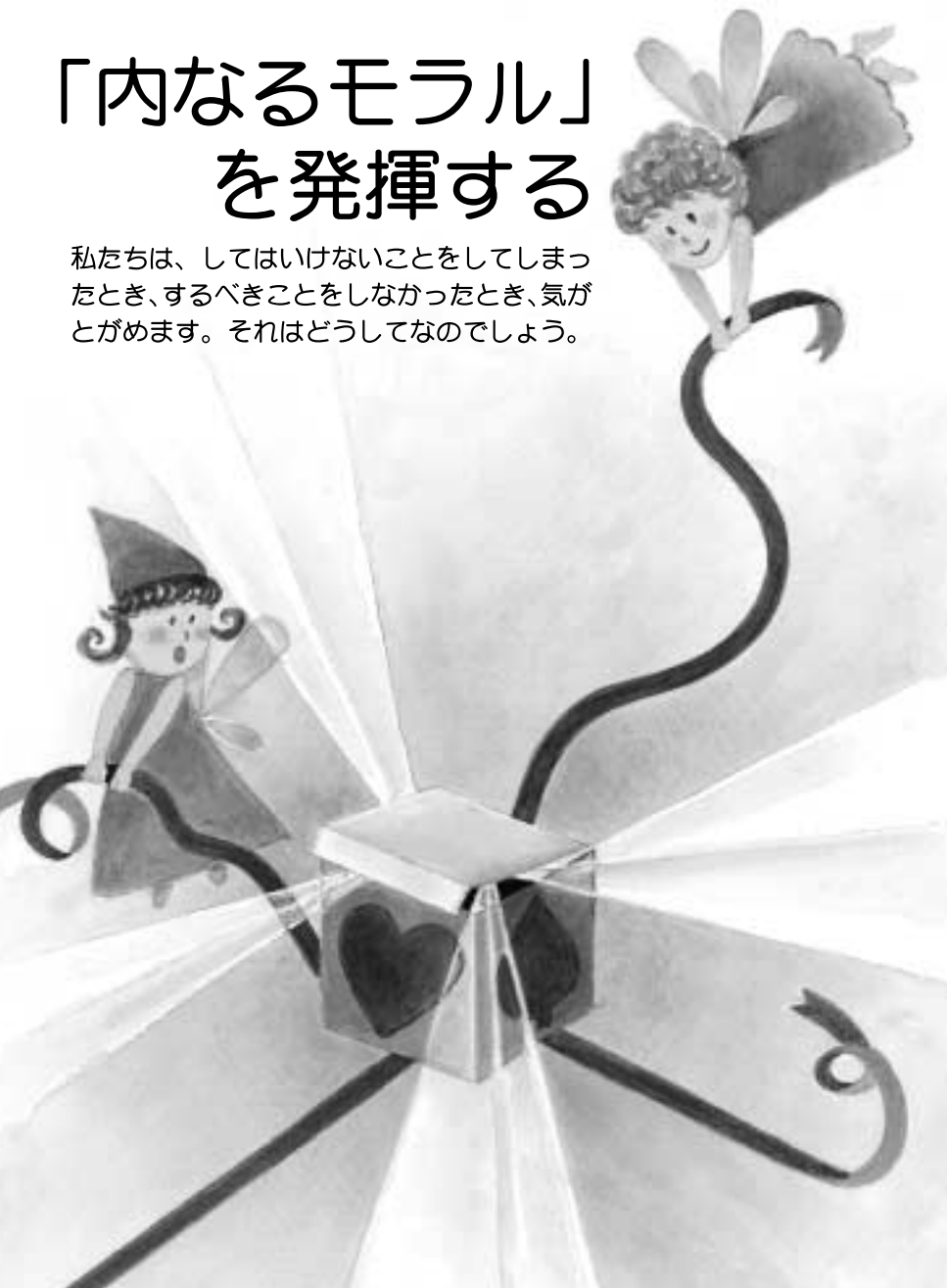


「内なるモラル」 を発揮する

私たちは、してはいけないことをしてしまったとき、すべきことをしなかったとき、気ががめます。それはどうしてなのでしょう。



問われる「モラル」

みなさんは、うそをついたことはありますか。

自分の失敗を人のせいにしたことはないでしょうか。

自分のわがままから、家族や友だちの心を傷つけたことはありませんか。

自分に与えられた用事や仕事を途中で



やめたり、手抜きをしたという経験はないでしょうか。

*

私たちは、誰でも心の「弱さ」を持っています。ですから、よくないことだと分かっているにもかかわらず、つい行ってしまうことがあります。

それでも、よくないことをすると、たとえ人に知られなくとも、自分で気がとがめたという経験はないでしょうか。それは、自分の心の中に道徳心が根づいているからです。

「モラルの崩壊」と言われ続けている今日です。今、あらためて道徳心の大切さについて考えてみたいと思います。

「うそをつく と記憶に残る」

広島大学の越智貢教

授は、ある講演の中で、いくつかの小学校で道徳授業のアドバイザーとして、子どもたちに接したときの出来事を紹介しています。

ある研究授業で、子どもたちに次のような質問を投げかけてみました。

「『うそをついたらゲームを買ってあげる』と誘われたとき、あなたならどうしますか」

すると、ほとんどの子どもが、「ゲームは欲しいけれど、うそをつくことは悪いことだ」「うそをつくと親に叱られる」

などと答えました。

ところが、一人だけ、「うそをつく」と記憶に残る」と答えた女の子がいました。A子さんでした。

うそをつくとも記憶に残る——越智教授





は、この答えに衝撃しょうげきを受けました。

「悪いことだと教えられたから」「誰かに叱られるから」というような理由ではなくて、自分の心の内部にある理由によって発言したこのA子さんの言葉には、ほ

かの子どもたちの答えには見られない、しっかりとした意志と豊かな感性かんせいが感じられる。そして、A子さんにとって、うそをつくことが悪いのは、ただ単に他人や社会がそれを悪いとみなしているからではなく、A子さん自身の心の中に備そなわったものがそう判断させているからだと感じました。

そして、以前にアドバイザーとしてかわっていた別の小学校で、五年生のB子さんが書いた作文「さびしくして眠れなかった夜」を思い出しました。その作文は、B子さんが幼稚園のときに初めてうそをついた経験について書かれたものでした。B子さんにとって、このときのこと、どれほど印象に残る出来事であったかがよく表れています。



心に刻まれた 悲しみと喜び

さびしくて

眠れなかった夜

私は、かなしくてか
なしくて、眠れなかつ
た夜があります。それ
は幼稚園の時に、私が
初めてうそをついた時
のことです。

そのころ私は、ソラ
ママが大きらいでし
た。ある日、お弁当の時間のこと。お弁
当箱のふたをあけると、私のきらいなソ
ラママが入っていました。私はドキッと
しました。だから、先生やみんなにない
しよで、机の下にソラママを落としまし
た。

その時、なんだか変な気持ちになりま
した。そう、なんだかさびしい気持ち
に……。

そして、帰りの会が終わり、外になら
んだ時、私の担任の先生が、「今日、お掃
除の時間に、机の下にソラママが落ちて
いました。今日、お弁当の中にソラママ
を入れた人、いたら手をあげてください」と
言いました。私は、こわかったです。
〔私を迎えにきていた〕お母さんが手を
あげました。その時、私はかなしかった
です。

そして家に帰ったら、とてもおこられ
ました。その時、私は「うそをついては、
いけない」ということがわかりました。
私は、うそをついた自分が、かなしく
なってきました。



「もう、うそはつきません……」

お母さん、お父さんは、ゆるしてくれただけど、私はその夜、ぜんぜん眠れませんでした。さびしくてさびしくて、眠れなかったのです。なんだか、うそをついた自分が、かわいそうに思えてきたのでした。

その夜、夢を見ました。私は、先生におこられていました。そして、たたかれてしまった時、目がさめました。またもや、かなしくなりました……。

朝おきたら、お母さんは、もう、なにともなかったように、わらって「おはよう！」と言ってくれました。その時のうれしさは、とんでもないほどうれしかったです。私は、きのうのことを言わないお母さんを、とてもやさしく思いま

した。

そして、幼稚園に行ったら、先生が「おはよう。きのうのようなことは、もうぜったいしちやだめよ」と言っつて、ゆるしてくれました。その時も、とてもうれしかったです。

私は、そんなお母さんや先生が大好きです。

（『第十二回道徳教育研究大会紀要』（文部科学省委嘱「豊かな心を育む教育事業研究」より）

この作文には、うそをついたときの後悔や恐れ・悲しき、そして許しを得たときの喜びや安心感が素直に表れています。

この体験は、道徳心の一部として、B子さんの心に刻まれることになったのです。



「外なるモラル」と「内なるモラル」

越智教授は、この作文について「これがまさに『記憶に残る』ということであり、『内なるモラル』の典型である」として、次のように述べています。

——モラルには

「外なるモラル」と「内なるモラル」の二つがある。

「外なるモラル」とは、自分の外にあるルールにもとづくモラルである。

一般的に「他人に危害や迷惑を与えない限り何をしてよい」と考えられ、た

とえ善いことだと分かっているとしても、自分の損得勘定に見合わなければ、みずからすすんで行うことは少ない。

しかし、もうひとつの「内なるモラル」は、自分の内にある良心

にもとづくモラルである。

「よりよく生きたい」「自分を高めたい」という精神的な欲求を大切にするため、誰かから言われなくても、積極的に善いと思うことを実行する。もちろん、善悪の判断に葛藤を覚えたりするが、たとえば会社のルールや他人からの指示がなくても、自分で自分を律することができる――



この「内なるモラル」は、今日問われている「モラルの崩壊」について考えるとき、ひとつの重要な鍵になるのではないだろうか。

道徳心を見つめ直そう

私たちは、子どものところに親や学校の教師、親戚や知人、地域の大人をおおして、さまざまな場面で、道徳心を心に根づかせてきました。

- うそをつかないで正直である。
- ルールや約束を守り、人に迷惑をかけるな。
- 人のせいにしないで忠実に行う。
- 礼儀正しくする。
- コツコツと努力する。
- 家族や友だちを大事にする。
- 思いやりの心を持つ。

- 力を合わせ、みんなのために尽くす。
- 困難に立ち向かい、乗り越える。

ところが、やがて社会生活を営むようになる、そうした道徳心を発揮することが面倒になり、ややもすると損をするというふうを考えてしまうのではないのでしょうか。

「正直者はバカをみる」という言葉は、それを表しています。

「モラルなんて関係ない」「私には必要だと思わない」「面倒くさい」などという言葉が聞かれるのも、「たとえ善いことだと

分かっていても、自分の損得勘定に見合
わなければ、自分からすすんで行うほど
大切なものではない」という気持ちがあ
るからでしょう。

このような価値観にもとづくかぎり、
法律や規則を整備し、職場や学校でルー
ルをたくさん設けても、自分からすすん
で行おうとすることはありません。

こうした背景には、経済性を優先し
て、人間の徳性をなおざりにしてきた、
今日の社会の風潮があります。私たち一
人ひとりが、みずからの問題として深く
反省する必要があります。

同時に、私たち一人ひとりが、みずか
らの心に根づいている道徳心——その心
の声に耳を傾けてみる必要があるでしょ
う。

「全部わかって いるからな」

池田繁美さんは、
現在、北九州市で
池田ビジネスス
クールを経営する
一方、みずからの
経験を踏まえて、
人格向上のための
「素心塾」「耕心塾」
を主宰したり、各
地で講演などを
行っています。

池田さんは、最新の著書『素心のすず
め』（モラロジー研究所刊）の中で、若いこ
ろに工場勤めをしていたときの体験をあ
げて、誠実に努力することの大切さに気
づかされた話を、次のように紹介してい
ます。

私が工業高校を卒業して、大阪の金属
関連の工場で働いていたときのことです。

*



自分で言うのも変ですが、私はとても
仕事熱心な青年でした。それは、生まれ
つきの負けん気の強さからきていたのか
もしれません。上司から与えられた仕事
に一所懸命に取り組み、生産性を向上さ
せることをいつも考えていました。その
せいで、職場の中では群を抜く成績を上
げていました。

ところが、これを快く思わない先輩た
ちの集団がいたのです。なんと、「職場の
和を乱すな」と私に言ってきました。彼
らの言う「和」とは、いったい何なので
しょうか。

それは、「仕事をセーブして歩調を合わ
せろ」ということでした。私が高校三年
間、野球部員として汗まみれになって学
んだ「和」、つまり「チームワーク」とは

異質のものです。彼らの仕事ぶりは、上司のいないところでは適当にサボり、上司の前ではまじめに働いているかのように装うというものでした。

私は、そんな彼らの姿を見るのがイヤでなりませんでした。とうとう私の反骨はんこつ精神が頭を持ち上げて、こんな行動をとつてしまいました。

上司がいないところでは、一心不乱いっしんふらんに仕事をする。ところが、上司が見まわりに来たときには、わざとらしくタバコに火を点けて一服いっぷくしたり、腰を降ろして缶ジュースを飲んだり――。

つまり、みんなとは反対の行動をとつたのです。この行為こういも天の邪鬼あまじやくのところがあつて、決して感心されるものではないが、若い私にとつては先輩たち

に対する精いっぱいていこの抵抗ていこうだったのです。ところが、ある日、職場の慰労会いろうかいがあり、一人の上司が私に声をかけてくれました。

「池田君、きみも仕事やりにくいだろうな。しかし、全部わかつているから、くじけずにやつてくれよな」

その言葉で、胸の溜飲りゆういんがスーッと下がりました。

「この人は、オレのことを見ていてくれたのだ」

そう思うと、心がポカポカと温かくなりました。上司は、すっかりお見通しだったのです。現場を見なくても、日ごろの姿に何もかも表れていたのでしょう。ほんとうに仕事をしているか、そうでないのかが――。

どこかで誰かが 見てござる



池田さんは、こうした体験をおして、「自分の知らないところで、きつと誰かが自分を見てくれている」という信念を持ち、誠実にコツコツと努力することの大切さを、あらためて自覚しました。

そして十年間の独学の後、税理士試験に合格し、念願の税理士事務所の開業を果たしたのです。

今日、池田さんは、次のように述べています。

一人のときにでもきちんとした行動が



できる人と、みんなが見ている前だけの人。

チーム全体のことを考えて力を出している人と、ただもたれ合っているだけの人。

まじめに根気よくやる人と、手抜きをして適当に要領よく振る舞う人。

陰でコツコツと努力をする人と、目立つことしかしない人。

善悪のモノサシで行動する人と、損得だけで動く人。

一人ひとりの顔つきや態度を見ていると、その違いがよくわかります。高い所から低い所を見れば、そのようすが一目瞭然であるように――。

誰からも見られず、認められなくても、悲観する必要はありません。自分の心に嘘や偽りがなく、正しい行いをしていれば充分です。(中略)

どこかで誰かが見てござる。

正しいことだけではなく、善くないことをした場合も同じです。目の前に誰もいなくても、きつと誰かが見てござる、なのです。そう思うと、背筋がシャンとしませんか。

たとえ他人が見ていなくても、きつと天の上から誰かが見てござる。見透かされても、恥ずかしくない心をいつも持ちたいものです。(前掲書より)

みずから道徳心を発揮しよう

今、あらためて、自分の心に問いかけてみてはいかがでしょう。

うそをついたときのこと――。
自分の失敗を人のせいにしてしまった

ときのこと——。

ルールや約束を破って、人に迷惑をかけたときのこと——。

自分のわがままから、家族や友だちの心を傷つけてしまったときのこと——。

自分に与えられた用事を途中でやめてしまったときのこと——。

請け負った仕事を、損得勘定や自分のつごうで手を抜いてしまったときのこと——。

そんなとき、気がとがめるような、悲しい、さみしい気持ちになったのなら、すでに心の中に道徳心が根づいていると、いつてよいでしょう。

モラルの実行とは、本来、他から強要きょうようされて行うのではなく、自分の心に根づいている道徳心にもとづいて、勇気を

もって行動することをいいます。

私たち一人ひとりの力は小さいかもしれませんが、自信を持って、自分の「内なるモラル」、つまり道徳心を、家庭や職場、社会で発揮し続けていくことが、健全で、よりよい社会を築きずくために非常に大切なことだといえるでしょう。

